

隼人族の森を渡る風

創造の現場から 第36回

森の彫刻家 上床利秋

木彫芸術とチェーンソーアート

8月富山県のいなみで開催された木彫シンポジウム世界大会を見学したときに、作家の一人として制作していた人たちと知り合う機会があった。そこで世界大会に出場して優勝経験もあるという北海道在住の木霊光さんと出会った。氏は11月には湧水町に呼ばれて作品をつくるという話を聞いていたのでそれに合わせて11月2・3日開催の湧水町チェーンソーアート大会を見学してみた。

たった2日間で身の丈以上の大きさの杉を作品にすることも凄いなと思うが、1メートルほどの大きさの杉を1時間という驚異の速さで作品として彫り上げて見せるクイックカービングというショーが企画されていた。そこで木霊さんほか数名の「世界的な」チェーンソー作家さんの輝いている姿を見学し、工具販売の社長さんたちとも知り合いになれて夜は天文館で慰労会に参加させていただいた。

その日、芸術作品として時間をかけて仕上げていく木彫芸術とチェーンソーアートの区別は必要なのかということを私はずっと考えていた。

木彫の街として全国的に有名な富山のいなみであるが、日本の音100選にも選ばれている。軒先を歩くと、木槌を使って鑿をたたく音があちこちで聞こえてくる音である。これはコンコンという音



製作中の木霊 光氏(左端)
制作期間は12日間
いなみ国際木彫刻キャンプ2019



ドルジスレンレハゲワドルジ氏
「ヤクの頭部」
制作期間は12日間
いなみ国際木彫刻キャンプ2019

が風情を感じていいものだ。これに対してチェーンソーの音はバイクが轟音を出し続けているようで、はっきり言ってしまうさいかも。しかし、それを扱う職人のいであちはなかなかかっこいい。防音用ヘッドホーンにサングラス。皮手袋に膝には危険防止用カバーを装着するとハードロックのアーティストの様相になっていく。けたたましくチェーンソーを駆使しながらどんどん形にして行く様はさながらロックンローラーがエレクトリギターを演奏しているようでもあり、カッコイイと思うのは恐らく自分だけではないだろう。

木彫芸術は自分の思いを正確に表そうと、粘土で練習し、デッサンし、最終的には鑿で形を突き詰めていく。何か月も時間をかけるし、数千回数万回と鑿をたたくので肩や肘は悲鳴を上げるものだ。60歳代になつた自分にはまるで体力を磨り潰して作品にしている思いがある。それに比べてチェーンソーアートの人たちは数日間成形にしてしまう。マイスターになると、出来栄でも一般の人たちを感動させる形が作れてしまうようだ。出来上がった様子が速ければ観客も飽きないの盛りに上がる。どこか、陶芸家がぐい飲みを製作する様を観客が見物している光景に似ている。

バツハが現代で生きていたならば、恐らくエレキギターを試みていただろうという話を聞いたことがある。チェーンソーは便利な現代の工具だ。しかし、それを利用しながらも木彫を単なる客寄せパンダに落としてはいけぬ。やはり高品質の芸術を目指すという奄美の孤高の画家田中一村の心を忘れてはならない。そして健康の維持も大切だ。

自分は、チェーンソーアートもこなせる真の彫刻家でありたいと思っ
うのは無理な考えだろうか。

日展会員 第一幼児教育短期大学 教授



製作中の林 孝雄氏
クイックカービングは60分間ですべて彫り上げる。ショーの要素が強いイベント。
湧水町チェーンソーアート全国大会2019

レモン画材絵画教室 **ご案内**

- 隔週水曜日 10:00～ 油絵・水彩教室
 - 隔週土曜日 16:00～ 油絵・水彩 教室
 - 隔週日曜日 16:00～ デッサン
 - 隔週土曜日 ①10:00～ 子供絵画教室
②13:30～
 - 月1回 第2木曜 10:00～ 和紙ちぎり絵教室
- ★ingミニセミナー〈POP文字・筆文字・絵手紙など〉
チラシ等で随時ご案内致します。

お申し込みは TEL 0995-45-1015 国分進行堂・レモン画材まで

この森のアトリエで彫刻を
共に作ってみませんか

ホームページ刷新しました。

<https://douzou.jp/>

上床利秋

このページのバックナンバーも

読むことができます。

検索